

近代建築におけるリノベーション空間の特性に関する研究

自 営 家 倉 敬 和
近畿大学理工学部 岡田 昌彰

1. はじめに

戦前に建てられた近代建築が新たな観光資源となるなど、近年その継続的保存活用が社会的に注目を集めている。東京の同潤会青山アパートの建て替え工事や「近代建築探訪ツアー」などが一般紙で話題になるなど（図-1）、専門家のみならず一般市民の関心も高まりつつあるといえる。建築の保存デザインに関する文献においても、保存・再生・活用といったキーワードを持つものや¹⁾、リノベーション^{補注(1)}に関するものが増加傾向にある。その一方で、新しい用途を与えられた近代建築に生起するリノベーション空間の特性そのものについて十分に検討されているとはいえない。

本研究は主にオブザーバーの発見する視点に着目し、近代建築がリノベーションされることにより創出される空間の価値及びその可能性を提起することを目的とする。

2. 建築リノベーションの現状

「改装/建築の再利用/修復」というように、“リノベーション”という言葉は各分野において多様な意味合いで用いられているのが現状である。近年は、東京をはじめとする都市の空きビルにデザイナーや建築家がデザイン性のある SOHO（寝泊まりできる仕事場）機能を持たせ、人気オフィスとして再生する事例も見られる。また、観光施設として既存の近代建築リノベーションが全国各地で実施されているほか、建築の新しい表現手段としても普及しつつある。近代建築を単なる歴史遺産や保存対象と捉えるのに加え、活用可能なストックとして見直す考え方が浸透してきているといえる。既存の近代建築のもつ「歴史や記憶、空間構成」に対し、新しい構造システムや新用途の付加によって“建築の新空間”を創造することに、リノベーション空間の特性の1つがあるものと考えられよう。

例えば札幌市にあるサッポロファクトリー（図-2）は、明治・大正時代に建てられたビール工場を歴史遺産として残しながら、ショッピング機能をはじめとする娯楽施設を付加して保存活用している事例である。また、かつて工場で使われていた機械や備品を「サルベージュ・アート」としてインテリアに再利用している点も特徴的である（図-3）。



図-1 朝日新聞 2003年12月21日号



図-2 サッポロファクトリー外観



図-3 サルベージュ・アート
工場の部品をドアノブとして再利用した例
（サッポロファクトリー）

3. 新聞記事にみる建築リノベーションの動向

続いて3章では、リノベーションを含む建築物の再利用に対する社会的関心の変化を検討した。ここでは「聞蔵(きくぞう) DNA for Libraries」システム^{補注(2)}を用い、1984年1月から2003年12月までに発刊された新聞記事における建築再利用関連記事の出現率を算出した(図-4)。1990年代に急増し、現在は漸増傾向にあるのがわかる。

例えば、各分野のビジネスリーダーたちがインタビューやコラムに登場する朝日新聞の連載「フロントランナー」に、リノベーションで事業を成す「アイデアールプロジェクト」の黒崎輝男氏が登場している(図-5)。同じく2004年朝日新聞の「暮らし」欄においても「西陣再生」と題した記事が見られ、京都市において「銀行が塾に」、「銭湯がカフェに」再利用されたリノベーション事例が紹介されている。このように、近年はリノベーションが建築有識者のみならず一般の人々にも身近なものとして捉えられているのがわかる。

4. 神戸に現存する近代建築の現況分析

続いて4章では、実際にリノベーションが展開している近代建築の現況を分析する。「近代建築ガイドブック.西日本編」²⁾をデータベースとし、神戸における近代建築の保存形態及び現用途の現況調査を行った。その結果、調査対象全60件のうち「銀行がカフェに」「学校が工房に」など、リノベーションされている事例が41件存在した。(表-1・2) 現状保存が全体の8割を超えているが、毎日新聞神戸ビル(旧横浜火災海上保険神戸支店)などのファサード保存事例も7件あった。

例えば、旧ナショナル・シティ・バンク神戸支店は、現在、大丸神戸店「LIVE LAB WEST」(図-6・7)として靴・洋服・雑貨店などが入るショッピングビルにリノベーションされている。興味深い背景として、大丸が英国のブランド「サザビー」を誘致する際、先方が出店条件として古い倉庫を利用した店舗を希望し、このことが神戸・旧居留地内に残る近代建築のストック的活用の契機となったこともあり、当地区における近代建築リノベーションの先駆的事例として位置づけられる。(http://www.saikaihatsu.gr.jp/juku3.html)^{補注(3)}。

リノベーション事例の「現用途」は「飲食」「服飾・雑貨」といった日常生活的なものが半数近く

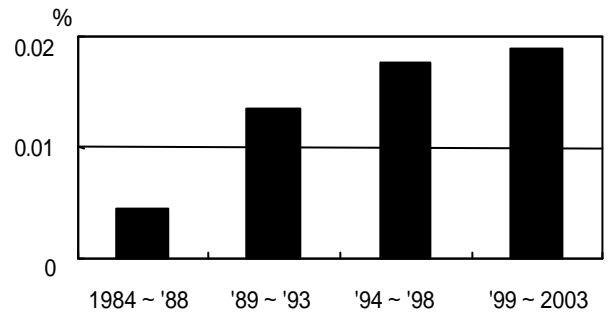


図-4 新聞全記事に占める「建築再利用」記事の割合変遷



図-5 朝日新聞2003/10/04朝刊「フロントランナー」



図-6 LIVE LAB WEST 外観



図-7 LIVE LAB WEST 店内

表 - 1 保存形態の現況 (2004 年 6 月現在)

保存形態	現状保存	ファサード保存	部分保存	計
事例数	34	7	0	41

表 - 2 現用途の現況 (重複あり) (2004 年 6 月現在)

現用途	飲食	資料館	服飾・雑貨	美術館	その他
事例数	19	15	11	7	2

を占めているのが特徴的である。また、「資料館」なる用途も多数存在している。これには、神戸・北野地区に現存する近代建築を、資料館的役割を担う「異人館」として保存活用するという神戸地域の特徴が反映されているといえよう。

5. リノベーション空間に対するイメージ分析

次に、41 件存在したリノベーション空間のイメージを分析した。インターネット検索サイト google のヒットページにおける各空間に対する言及内容を抽出し、「デザイン」；建物のデザインに対するもの、「ギャップ」；建物と現用途とのギャップに対する驚きや感動に言及しているもの、「ノスタルジー」；建物が醸し出す懐かしさに対するもの、「単なる珍しさ」；建物を単に珍しいものとして表現しているもの、の 4 項目に分類整理した。(表 - 3)

表 - 3 リノベーション空間に対するコメント例 (2004 年 6 月現在)

現名称	現用途	元の用途	空間のイメージ			
			デザイン	ギャップ	ノスタルジー	単なる珍しさ
海岸ビルディング	テナントビル (ギャラリー・カフェ・服屋など)	オフィス	・玄関から一直線に掛けあがる直階段のダイナミックな空間デザインが特徴的 http://www.city.kobe.jp/cityoffice/33/keikan/juyou/jc3k01_07.htm		・何やら古く、いかめしい。まさに孤高の風格を感じる。古いのにモダンで、なんとなく懐かしい気分させてくれる http://www.albumshop.co.jp/sub3/sub3.htm	・ビルディングってなんか可愛い。とても雰囲気のあるこのビルの中にはお洒落なお洋服やさんが! http://www001.upp.so-net.ne.jp/shokanomori/shop12.htm
東天閣	中華レストラン	邸宅	・扉を開けるとまるでタイムスリップをしたかのような、古き良き時代のインテリアがお客様をお迎えます http://www.hyogo-tourism.jp/authen_friend/restaurant_j/restaurant.html	・百年の歴史が刻まれているというタイムマシンみたいなこの場所なら百年たっても変わらない二人を誓えそう http://www.i-wedding21.com/guide/13-6.htm	・古きよき時代の空間に包まれて心にも身体にも美味しいおもてなしを http://www.totenkaku.com/	
煉瓦倉庫レストラン街	結婚式場・レストラン	倉庫	・レトロでお洒落なレストラン。神戸という街に合っている。建物自体が港に浮かぶひとつのアートのような http://www2.aasa.ac.jp/people/kanare/29411.html	・潮風に吹かれながらレトロな煉瓦倉庫街を歩けば、忙しい日常を忘れて癒されるはず。神戸ならではの異国情緒漂う雰囲気。タイムスリップしたようなレトロな光景。歴史を感じるアンティークなレンガ http://www.seebit.tv/contents/kankoumap/habor/renga/renga.html	・レトロモダンなウエディング空間。100 年以上前のレンガや柱をそのまま使用し、温かみ溢れるアットホームなパーティを叶えられる http://www.isize.com/marriage/riagelife/idx_s/BOX_0573108007/	
うろこの家	公開異人館	邸宅	・お城のような館。うっとりするほどの豪華なたたずまい http://www.jalan.net/kanako/SPT_162338.html		・初めてきても懐かしく、何度訪れても新鮮に、訪れる人の胸に時代の浪漫を刻んでくれます http://www3.famille.ne.jp/~kiyomura/kitano/01/uro~1.html	・坂道がきつかったけど個人的なこの建物を見たら、疲れもパツと飛んでいっちゃった http://www.jr-odekake.net/navi/santo/night.html
チャーターードビル	テナントビル (カフェ・服屋)	銀行	・重厚さと美しいデザインが印象的 http://kanko.tabimado.net/kanko/go/resource\$Id=SHHG010037	・そこはタイムスリップの世界 http://www.portnet.ne.jp/~yukosino/kyoryuti.html		

ここで、ギャップのイメージの生起事例において、「元の用途」と「現用途」との間には対応関係が見られる。例えば、行員の業務遂行と顧客の各種金融取引を行う「銀行」や、資材保管を目的とした「倉庫」など、フォーマルかつプライベートな旧用途の形成した空間において、レストランなど公に開かれたインフォーマルな新用途が与えられているケースとなっている。このように、元の用途に対する常識から逸脱した新用途に機能が変更される場合、

表 - 4 「ギャップ」コメントが得られた7事例

現名称	旧名称	現用途	元の用途
東天閣	ショッフ邸	中華レストラン	邸宅
チャータービル	チャーター銀行	テナントビル (服屋、カフェ等)	銀行
カフェ・フロインドリーブ	神戸ユニオン教会	カフェ、パン屋	教会
煉瓦倉庫 レストラン街	日本貿易倉庫	レストラン	倉庫
北野工房のまち	北野小学校	体験型工房 (飲食等)	小学校
(旧)神戸移住センター	国立移民教養所	ギャラリー兼 アトリエ (カフェ)	教養所
地下鉄海岸線 みなと元町駅	第一銀行 神戸支店	駅舎ファサード	銀行

「食い違い、へだたり」^{補注(4)}といった「ギャップ」の価値が発生しているものと考えられる。

「ギャップ」の価値が発生している全7事例に着目すると(表-4)、同様にいずれも「元の用途」が「現在の用途」と大きく乖離しているのがわかる。例えば、1928年ヴォーリス設計の旧神戸ユニオン教会をリノベーションした「カフェ・フロインドリーブ」は、「教会」という神聖かつ静寂な場を「カフェ」という談笑の場に用途転用している(図-8)。また、7事例中6事例が「飲食」に用途転用されていることがわかる。前述のようにフォーマルな元の用途とのギャップを創出するほか、飲食利用は転用空間に対しある程度の滞留時間を伴うこともあり、オブザーバーに新空間を体験させる上で有効であることも推察されよう。

6. 結語と今後の課題

本研究では、近代建築のリノベーション空間の特性として、(1)古風なデザインの賞翫、(2)近代へのノスタルジー、(3)用途変更によるギャップ創出、及び(4)珍しさの4要素を抽出した。特に(3)は、新旧両用途の明確な差異の現出が新旧両空間の質的ギャップを創出し、さらに滞留を促進する新用途の導入によってそれが強く認識されていることがわかった。

本研究で得られた近代建築のリノベーション空間の特性は、さらに大きなギャップを生起しうる近代土木空間のリノベーション論として展開する可能性がある。今後の発展的課題としたい。



【記述例】

ホンモノの歴史ある教会でティータイムが楽しめるなんて、神戸らしくてお洒落だけど... 一体どうなってるの

図 - 8 教会をカフェに転用した事例

【参考文献】

- 1) 田原幸夫「建築の保存デザイン」学芸出版社、2003 等
- 2) 松葉一清ほか「近代建築ガイドブック.西日本編」鹿島出版会、1984

【補注】

- (1) 定義は文献により様々であるが、ここでは「古い建築物が、現代において魅力的なモノとなるよう手を加え、活かす手法」とする。
- (2) 「聞蔵(きくぞう)DNA for Libraries」システムは、朝日新聞本紙(1984年～)ほか、各地方版、週刊朝日(2000年4月～)などをデータベースとしている。
- (3) インターネット検索サイト「google」より検索。
- (4) 新村出「広辞苑第四版」(岩波書店1991)による「ギャップ」の定義。